

## 千葉県における天然ガス開発の先駆け

登録番号	第010号
名称(型式等)	大多喜天然瓦斯株式会社【現 関東天然瓦斯開発株式会社】
所在地	千葉県茂原市茂原 661 番地
設立年	昭和6(1931)年

### 選定理由

明治5~7年にかけて横浜や東京では石油ガスの利用が始まり、ガス燈が点灯された。千葉県内においては、天然ガスが明治24(1891)年に、夷隅郡大多喜町の醤油醸造業を営む太田卯八郎の屋敷内で発見されたのが始まりである。井戸掘りの工法である「上総掘り」の技術が明治20(1887)年頃完成したのをうけ、ガス層までの掘削が可能となり、県内各地で天然ガスの発掘が容易にできるようになった。

千葉県内でガス田がある地域は、船橋市・市川市・鎌ヶ谷市周辺、千葉市から市原市の東京湾岸関東天然瓦斯開発株式会社及び大多喜天然ガス株式会社編一帯、成田市周辺、九十九里町・東金市・山武市・茂原市・大多喜町・いすみ市・一宮町周辺と広い地域にわたる。

天然ガスが発見された明治期の利用方法としては、灯火用と炊事用などの日常生活に用いられるものが主であり、工業用への利用は活発ではなかった。大正期に入り天然ガスの利用者は増え始め次第にガスは日常生活に浸透し、ガスを提供する業務を生業とする業者も現れ始めた。特に茂原地域では、天然ガスの利用組合が結成(明治44(1911)年)された地域や大多喜町のように良質の天然ガスが永続的に掘削可能であるとの調査結果を受け、昭和6(1931)年「大多喜天然瓦斯株式会社」(現関東天然瓦斯開発株式会社)を設立するなど、経営基盤の確立を行い、産業の活性化に深く関わってきた。



大多喜町猿稻の「水溶性天然ガス企業発祥の地」碑

関東天然瓦斯株式会社の天然ガス生産量と県内比率  
(昭和30年~55年) 単位(千m<sup>3</sup>)

年	千葉県全体	外房	内房	合計	県内比率
30	10,489	8,806		8,806	84.0%
31	13,038	8,207		8,207	62.9%
32	29,161	11,947		11,947	41.0%
33	61,416	48,911		48,911	79.6%
34	100,435	63,296		63,296	63.0%
35	153,590	78,485		78,485	51.1%
36	207,996	91,896	4,389	96,285	46.3%
37	253,933	101,605	4,176	105,781	41.7%
38	274,577	103,456	2,920	106,376	38.7%
39	302,083	110,827	4,440	115,267	38.2%
40	344,316	111,456	6,777	118,233	34.3%
41	373,377	116,106	6,882	122,988	32.9%
42	413,618	116,164	10,906	127,070	30.7%
43	472,666	132,576	13,913	146,489	31.0%
44	538,381	144,509	25,312	169,821	31.5%
45	555,282	150,330	36,253	186,583	33.6%
46	562,620	151,756	41,849	193,605	34.4%
47	542,773	160,126	35,461	195,587	36.0%
48	524,687	154,848	28,541	183,389	35.0%
49	510,791	162,571	23,700	186,271	36.5%
50	490,440	156,730	22,330	179,060	36.5%
51	479,144	154,230	20,915	175,145	36.6%
52	454,349	149,753	15,919	165,672	36.5%
53	448,540	147,414	12,446	159,860	35.6%
54	441,199	139,762	13,235	152,997	34.7%
55	447,322	139,635	14,090	153,725	34.4%

出典 千葉県の生産量 『千葉県統計年鑑』

千葉県総務部統計課及び千葉県企画課統計課編

関東天然瓦斯開発株式会社の生産量 『五十年の歩み』

関東天然瓦斯開発株式会社及び大多喜天然ガス株式会社編